

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山東部小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

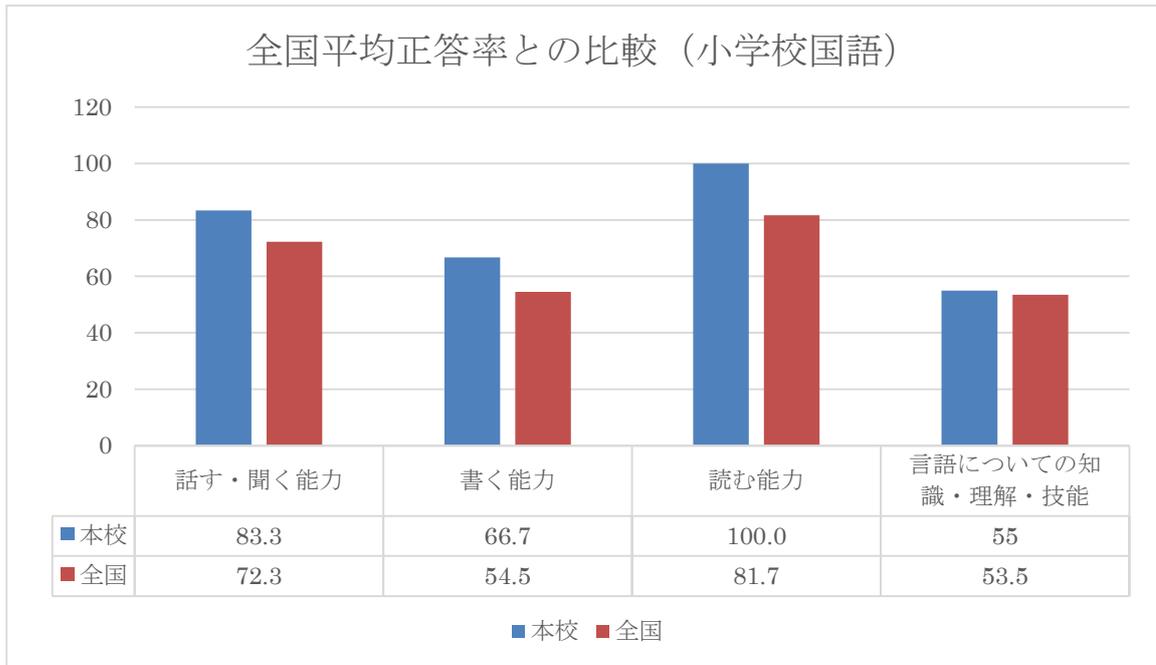
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・算数への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域すべてで全国平均正答率を上回っている。特に「読む能力」の正答率は、100%で全国平均正答率を大きく上回っている。また、全児童が全問回答している。問題を解こうとする意欲が高いことが分かる。

(2) 成果と課題

「話す・聞く能力」が高いのは、国語で学習したことを他教科や全校スピーチで生かされたことが成果につながったと思われる。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたり質問を考えたりする活動を繰り返してきた結果であると考えられる。

「読む能力」が正答率 100%であったのも友だちの「読み」を自分の「読み」に生かすことで深い「読み」につなげるような授業を意図的に仕組んできたからであると思われる。また、朝の時間の読書タイムの取り組みと日々の読書指導の成果だと思われる。

「言語についての知識・理解・技能」が 4 領域の中で一番正答率が低く全国平均正答率とほぼ同じであることが課題である。それぞれの内容領域で根幹をなすのは言語力であるので今後、漢字、接続語、ことわざなどの学習に力を入れる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

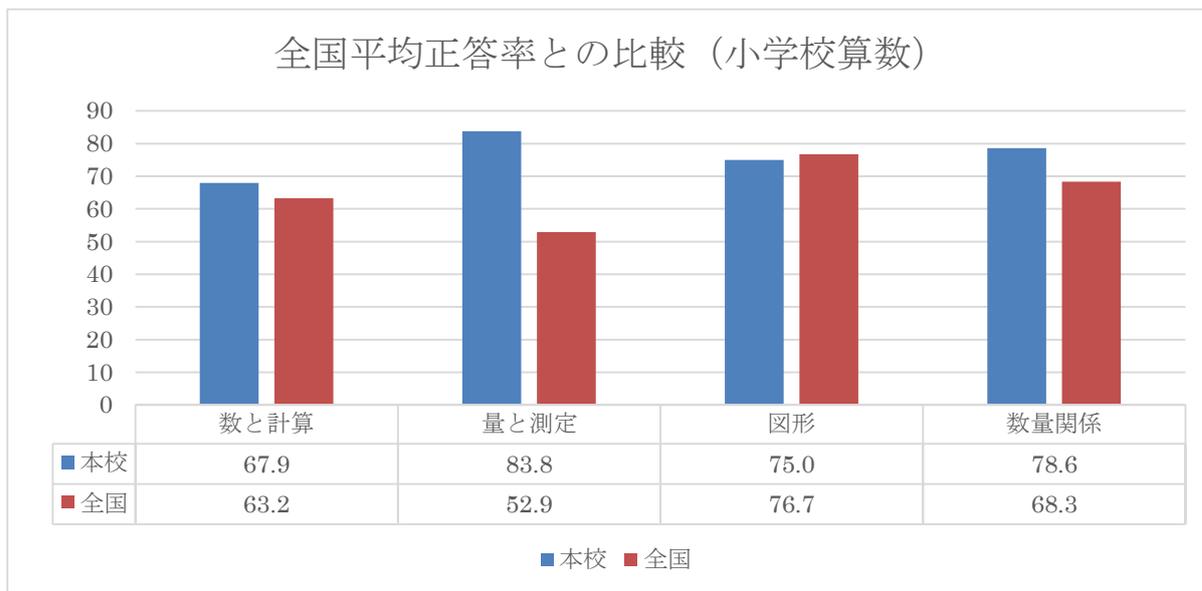
【学校では】

- 朝の「すくすくタイム(学力向上の時間)」を工夫して語彙力を伸ばす指導をします。
- 工夫された自主学習ノートを掲示して児童を称賛するなど自主学習を奨励します。
- 授業の初めに見通しをもたせる活動、終わりに学習したことを振り返る活動を取り入れ、学習の定着を図ります。
- 授業をはじめ、スピーチタイム、その他の行事の中で発表の場を設け、相手の話を受けて自分の意見や考えを表現できる力の向上を図ります。大人数の中でも臆することなく意欲的に発言することのできる児童を育てていきます。

【ご家庭では】

- 語彙が増えることは、ものを考えるときの手助けになります。また、自分の気持ちをより正確に伝えるときの手段になります。お子様の語彙を増やすために読書の習慣をつけさせましょう。一緒に読書をすることも効果的です。
- お子様と会話を楽しみましょう。新聞記事やテレビニュースから話題をあげ、自分の考えを話したりお子様の考えを聞いたりしましょう。共感したり根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流しましょう。
- 中高学年では、生活の中で分からない言葉に出会った時に、辞書を引く習慣をつけさせましょう。語彙力が高まり自分の思いを表現する力を伸ばすことができます。

2 算数



(1) 結果

4 領域のうち「数と計算」「量と測定」「数量関係」で、全国平均正答率を上回っている。特に「量と測定」では、全国平均正答率を大きく上回っている。しかし、「図形」では、全国平均正答率をわずかに下回っている。

また、国語と同様に全児童が全問回答している。問題を解こうとする意欲が高いことが分かる。

(2) 成果と課題

「量と測定」では、記述式問題の正答率が全国と比べて高い。言葉や数を用いて説明する力がついてきている。「数量関係」では、場面の状況を解釈し、数量の関係に着目して筋道を立てて考える力がついてきている。授業中に自分の考えを説明したり友だちの考えを聞いて自分の考えと比べたりする場を多く取り入れてきた結果であると考えられる。

「図形」では、図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題に課題が見られた。授業の中で色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが必要である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業の中に「めあての提示」「自力解決」「考えの交流」「振り返り」を仕組み、学びを確かなものにしていきます。
- 一人ひとりの学習状況を確実に把握し、個に応じた基礎基本習得のための補充学習と活用力向上のための発展的な学習を取り入れていきます。
- 朝の「すくすくタイム(学力向上の時間)」では、計算の時間を継続することで計算力の向上を目指します。
- 自学を充実させ、「自分の得意な分野を伸ばす」ことや「苦手な分野も改善する」ことを意識させ、自分に必要な学習に取り組むことができるよう指導していきます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数で学習したことを生活に生かすようにさせましょう。「買い物の場面で代金・おつり・割合(%引き)」「おかし数えでかけ算」「料理で重さ・かさ」「おり紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブで速さ・時間・道のり」等、身の回りには、算数ができるものがたくさんあります。生活の中で、算数を使うことで算数が好きになると考えられます。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査 (回答方法 4段階から選択)

(1)結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》(「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合)

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100	95.3
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	100	81.4
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	100	91.6
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校の出来事について話をしますか	100	77.4
自分には、よいところがあると思いますか。	100	81.2
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	100	95.2
学校のきまりを守っていますか。	100	92.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100	97.1

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは、概ねできている。これは家庭の協力を得ている成果である。今後も学校と家庭で連携して指導を続けていく。

挑戦心についても自己肯定感が高く、ものごとをやり遂げた時の達成感を感じることができている。規範意識も高く、きまりを守ることができている。

《家庭学習の様子》(「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合)

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	100	71.5
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「1時間以上」	0	66.1
「30分以上、1時間より少ない」	100	24.1
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、 学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか。 「だいたい週に4回以上行く」	25	3.5
「週に1~3回程度行く」	75	13.7
読書は好きですか	50	75.0

家庭学習については、計画を立てて勉強することができている。しかし、勉強時間は、全員が「30分以上、1時間より少ない」と回答しており本校の目標である「10分×学年+30分」に達していない。

読書については、全員が週に1回以上図書館に行くことができている。しかし、読書時間は、個人差が見られるので、読書指導の充実を図っていく必要がある。

家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導を継続していく。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 朝の時間や学級活動の授業でソーシャルスキルトレーニング(良好な人間関係をつくり保つための知識と技術を身につける練習)を継続して取り入れます。子ども達が人と上手に関わり、自己有用感や自己肯定感を高めることができますようにします。
- 東部っ子学習の約束を子ども達に意識させたり、自分の生活を振り返らせたりすることを継続して行います。

【ご家庭では】

- 「自分は家族から愛されている。」「自分は家族の役に立っている。」という思いがお子様の自己肯定感や自己有用感を高めます。小さな事でも認め、褒め、そのことをよろしければ学校にもお伝えください。
- 学習時間を確保してください。10分×学年+30分(宿題や自学・読書等を含む)がめやすです。
- 子どもが勉強している時は、テレビを消す等、落ち着いた学習環境を整えてください。